芦高新聞 号外

発行所
芦屋市宮川町82
県立芦屋高校
編集
出版部

立候補者出そろう

去る六月六日より第十七期自治会役員選挙の立候補受付が始まった。だが、十一日のしめきり日には立候補者が少なく、定数に満たなかったため締め切りを十三日まで延期することになった。だが定数にまではまだまだ満たず、やむなく、十七日まで、またもや延期することになった。

結局、十七日の午後四時三十分までに、会長二名、副会長二名、書記長一名、執行委員三名が立候補し、受付を締め切った。

しかし、女子の立候補が一人もなく、また、たいへん低調な、選挙の出足しであったことは残念だという声もあった。

会長候補

二―D　天野和夫

抱負　考えねばならない点を列挙してみよう。
㈠自治会への無関心
要はPR不足
○公開討論会の開催
○広報活動の徹底
○苦情受付の窓口設置
○執行機関の紹介
㈡執行の円滑な運営
役員にかかる過重負担
○専門の書記会設置
○書記局業務の充実
㈢書記局の質の向上
○有能な人材確保
㈣その他
◎執行・代議員・学校側による話し合い
◎自治会各機関の協力
以上あげてみるときりがないが結局一番大切な問題は㈠の自治会への無関心である。この問題さえうまくゆけば、あとのことがらは容易に実行できる。さらに、いろいろな問題がみつかり解決されてゆくだろう。しかし、実際のところ、達成はむつかしい。歴代の会長のほとんどはこの問題に頭をいためてきたわけである。だがこれが達成されない限り、他の問題や自治会の運営などのものがからまわりになってしまう。そこで私は考える。要はPR不足につきると思う。もっといえば一方通行である。自治会員からの反響はほとんど出てこないのが現状である。それには二つの原因がある。もっと執行・代議員会は決議・決定事項だけでなく、それに至るまでの進行状態等をおおっぴらにかくさず示すべきである。それには、その時の様子（執行・代議員会議・例会の進行過程）等を録音テープにまとめ、休み時間に放送をするのも良いだろう。さらに今一つは、そうやってPRを強化しても自治会員の声の受入れ態勢が不完全な点である。なるほど、新聞等があるにはある。しかしその新聞とて年五回しか発行しない（昨年度は六回）。それで一体、どれだけの声がとり上げられるだろう。そこではっきりとした受入態勢をとる必要がある。苦情受付の窓口設置はその一つである。

二―J　明石博臣

抱負　昨年ぼくが選挙に出て無事副会長に当選してよりはや一年が流れ去ったが、この間いったい何をやったか、ぼくの公約であった「理想的姿勢での自治確立」について何一つできなかったと思う。ぼくがここで会長選に出ないならばどこで簡単に責任のがれができるかも知れない。しかし、それでは何一つ解決されないのではないか。ぼく自身やりたい仕事は山ほどある。今の会員の無関心について、この一年副会長としてできなかったことを十分やってみたい。たとえば定例行事の革新や執行委員会の一般会員との融和等々である。やりたいことをやることほど楽しいことはないだろう。ただ、いろいろな問題はあるにしても、ぼくの公約を実現するためにも会長選に出たいと考えたのだった。だが矢野君の力強さ、「やろう」という気力、ぼくよりの数段もまさるのには脱帽せざるをえなかった。それに矢野君と組んでも何もできないかもしれないし、しかし昨年のくり返しはやらないつもりだ。少しでも向上できるという気持ちは持っているつもりだ。あと二年できれば力一杯やっていくつもりだ。抱負には少し遠いが一時は、いやこの一年考え続けてきたことであるが会長には立つまいと思ってきたのだが、有意義な学校生活が送れるのだと思います。

なぜ私が立候補したか。またなければならなかったか。それは立候補しない理由がないからです。一つに私が芦高の自治会員だからです。また二つに学校生活において、改善すべき点があるからです。また二つに自治会の仕事を自分自身に、このままではいけないと感じるようになっていくと考えるし、なんだかファイトがでてやりたいと思ったからです。これだけの条件がそろえば立候補しています。

副会長候補

一―K　藤本清二郎

抱負　僕が副会長に立候補したのは、一言で言って自治会の仕事をしたかったからです。別段クラスで推薦されて仕方なく立候補したのではありません。自治会の仕事をするのが本当に好きだからです。何よりも好きなのです。勉強よりも、遊ぶよりもクラブよりも、好きなのです。そして「まだ自治会も見い出し、しっかりとつかまねばわからんぞ」……いっちょやった自治会が進せねばかり、自治会員一人一人に福利は少しも、もたらされません。その為にも自治会の底辺にある声、隠れた意見を取り入れる様、じみちに出来る限りだけの自由は公約を出すほど自ら努力しようと思っています。

一―A　織田昇

公約というのは別にありませんというのは、私が入学してからまだわずかの期間しかたっていませんし、また、これからも聞くことだと思います。しかしその言葉は今まで何回となく聞いていますなのが問題として上がっているかわからないからです。また副会長という事上、公約といったものをだしにくいと思ったからです。しかし、ここに「現在ある自由」という抱負があります。この言葉のものではなく、生徒のものになるようでは私が関心がなかったからである。そしてまた芦高の執行部のものをよく知らない私に執行部をとうって盛り上げるのか聞かれたら、私はこう答えます。「私は執行部というものは、全然知らないほうがおかしい。こう思ったからです。

では実際になにをするのか、といいますと「現在ある自由」こういう考えを、ごく自然に、全自治会員が考えるような方向に導いていく事だと思います。具体的には、H・Rや会合を開き、自治会以上どれからのあらゆる困難にたち向かって、執行部というものを、みなさんによくわかってもらうよう努力いたします」努力をするといっても、まだ具体的に私の考えはありません。しかしこれはみなさんの考え方しだいではないかと思います。みなさんが執行部に対しての批評をもっていたら私はその批評をよくするために努力のので、すぐに盛り上げられるかというと疑問です。しかし今の私にはやる気があります。やる気があるかがわからなくなったかもしれません。（許してね）私はこんな文章を書くのが一番苦手なんです。厳しくなればやる気がある、とここに書きました。執行委員になりましたら、この気持ち、この気持ちを忘れず、ガンバルつもりですいやいやもりじゃなくてガンバリますロイ奴だとつけ加えておきます。（第一印象が悪いものでして）

書記長候補

二―L　桝田睦彦

現在の芦高の最大の問題点は自治会員一人一人の自治会に対する認識不足にあることは今までもよく指摘されている。僕はこの問題点に対し次のことを考えている。

一、大きな行事に対して実行委員会を設ける

二、自治会機関紙を設ける。

三、重要な問題に対して公聴会を設ける

一の例を記念祭に取ると去年の記念祭実行委員会は全く有名無実だった。実際に計画し実行に移したのはすべて執行委員会であった。確かに現在の執行委員会はよくやっていた。だがこれでは執行委員会の独走と一般自治会員が公然と認めても過言ではない。だから一般自治会員の意見を聞き、一般自治会員の意見を聞き、一般自治会員の意見を聞き、